

事故調・福知山線脱線事故報告書漏洩事件 107名の犠牲者・遺族への裏切いだ!

9月25日、2005年4月25日に発生した、福知山線脱線事故に対して事故原因を調査していた事故調査委員会の委員が公表前に最終報告書の内容をJR西日本山崎前社長に伝えていたことが明らかになりました。また27日には、JR西日本の土屋副社長が東京本部の鈴木副本部長に対し報告書内容を入手するよう事故調委員への接触を指示し約10回接触していたことが明らかになりました。JR西日本は「組織ぐるみ」ではないと否定していますが、経営陣が事故責任を逃れるために報告書の内容を事前に入手しようとしていたのは明らかです。事実、山崎前社長は報告書の「自動列車停止装置（ATS）があれば事故は防げた」との記述の削除を求めているのです。また報告書での「日勤教育」と事故との関わりについて聞き出していることに端的に示されています。

9月29日、前原国土交通相は佐々木社長を呼び出し「事故

調の中立性を損なう悪質な事例」「言語道断の行為」と断罪しました。

今回明らかになった漏洩事件は、安全設備の不備と異常な社員管理において多くの尊い命を奪いながら何ら反省しない経営陣の姿勢が作りだした事件です。

JR東海においても同質の「責任追及」「日勤教育」は存在します。JR東海労は安全確立に向け奮闘していきます。



9月29日 東京新聞

**JR西日本組織ぐるみの犯行
経営陣が事故責任を逃れるための犯罪だ!**